

## 木のスプーン（フォーク）作り 指導用資料

この資料は、曽爾職員が利用団体に直接指導を行う場合を想定した資料です。なお、利用団体に指導を行う際にもご活用いただけます。（曽爾職員の直接指導は有料となります。事前にご依頼ください。）

【対象】 小学生4年生程度以上から 【所要時間】 2時間程度

【活動場所】 クラフトホール30人程度、くろそ50人程度、野外炊事場50人以上（用具の関係で80人程度が目安）

### 1. 事前打ち合わせで確認をすること

①活動の目的（森林環境教育プログラムとつなげる、完成したスプーンでカレーを食べる等）

②参加数、参加者の年齢層、一人当たりの金額

③想定される事故やケガについて（刃物による切り傷、刺し傷）

④団体に用意、事前注文してもらう用具の確認

※●は当所売店で購入可能（要事前注文）

自然の家で貸し出しできる物	利用者に準備する物
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリル・のこぎり</li> <li>・キンドリングクラッカー</li> <li>・ドレッサー（金ヤスリ）</li> <li>・万力 ・木づち</li> <li>・グルーガン（延長コード）</li> <li>・小刀（必要に応じて）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スプーン（フォーク）の先端 ●紙やすり ●ポスカ</li> <li>●枝（長さ12～16cm程度、太さ1.5cm～2.5cm程度）</li> <li>・活動に適した服装 ・軍手 ・新聞紙</li> <li>・グルースティックまたは木工用ボンド</li> </ul> <p>※枝は、炊事薪を利用（炊事薪1束で20人程度の材料になる）。 自然の家の林などで拾うこともできるが、大人数では困難。</p>

⑤曽爾職員と団体指導者の役割分担（有料指導の場合）

曽爾職員→参加者：全体へ作り方や注意事項の説明、進行の調整、全体の安全管理

曽爾職員→指導者：団体指導者へ用具の使用法、各工程の指導方法、安全管理

役割分担 曽爾職員：全体の進行、安全管理

団体指導者：用具コーナーの管理運営、参加者への対応・ケア

団体に必要な役割分担 全体を見る人、用具の貸出担当、刃物など使用の巡回指導、ドリル使用の担当者

⑥当日の活動場所と集合時間 活動場所は、調プロ完成時、集合時間は事前打ち合わせにそれぞれ伝える。

指導者との直前打合せを開始 15分前に活動場所で行う。

### 2. 活動開始 15分前

①事務室に団体指導者が声をかける。

②活動場所まで指導者が用具を運搬する。

③活動場所の椅子や机を並べる作業は団体が行う。必要に応じて曽爾職員と配置等を確認する。

※万力の準備、作業導線の確保

④団体指導者と曽爾職員で流れ、役割分担、用具の使用法、終了の時間など再度確認する。

⑤団体指導者は売店で注文品を受け取り、運搬する。

### 3. 活動開始

①導入（参考：話す内容はアドリブを交えて自由に）（5分）

「身近なところで、木を使っているものは何がありますか？」（考えてもらう）

「曽爾にある木を使って、家でも使えるスプーンを作ってみましょう」（サンプルを見せる）

「ここの木の部分、これは曽爾周辺の森で育った木です」

「みなさんでこれから作ります。」(スプーンの部分と柄の部分それぞれ見せて完成イメージを見せる)

## ②柄を切り出す(20分)

「では、柄を作ることから始めましょう」 ※長さ 12~16cm 程度、太さ 1.5cm~2.5cm 程度

長さのカットが必要ならば、のこぎりでカットする。細くする必要がある場合は、キンドリングクラッカーで割る。節のある薪は割れにくいので注意が必要。割って残った薪は野外炊事で使用可能。

※団体指導者：作業台(万力)に付き、のこぎり使用の安全管理。キンドリングクラッカー使用の安全管理。

## ③スプーンを刺すための穴をあける(20分)

「穴を開けましょう、上、下の向きを決めましょう」

木材の真ん中に印をつけます。(木目によっては、穴をあけてスプーンを刺したときに割れてしまう可能性があります。スプーンを刺す向きで調整してください。) 団体指導者：ドリルで穴をあける。

## ④穴にボンドを注入する(5分)

柄の差し込み部分に木工用ボンドまたはホットボンドを注入する。(ホットボンドではやけどに注意)

団体指導者：ホットボンドのやけどに対する注意喚起。(使用前に温めておく)

## ⑤柄とスプーンの先端を固定する(10分)

あけた穴に、スプーンを差し込み木づちで差し込む。

穴の中にスプーンを刺し固定します。

団体指導者：差し込む際のサポート(特にフォークは手に刺さらないように)

③~⑦は順不同でもできるが、穴をあける際に木が割れる場合があるので、なるべく順番に行うこと。

## ⑥柄にやすりがけをする(25分)

「持ちやすくなるように、すべすべにしましょう」(室内では新聞紙などを引くと片付けが簡単)

切り出した柄のすべての面に金属ヤスリ(ドレッサー(貸出用))や、紙やすりをかけ、すべすべにする。

※団体指導者：金ヤスリ(ドレッサー)の貸出、紙やすりの配布。※団体の希望により小刀の使用可能

## ⑦ポスカ(油性マジック等)で柄の部分に好きな絵や文字、名前を書く(25分)

「お気に入りのスプーンになるように、絵や、名前などを書きましょう」この時に名前を書くと、誰のものが後でわかり便利。※団体指導者：ポスカ等の配布

## ⑧片付け、用具の返却(5分)

木くすなどの片付け。使用した用具の返却。

## ⑨ふりかえりと使用に際しての注意点(5分)

工夫したところ、どれくらい気持ちを入れたか、など作った感想などを伝えあう。

注意点：木の部分は優しく洗う。食洗機の使用は不可。使用後はよく乾燥させてから保管すること。

## 4. 活動終了後

用具の片付けと返却を事務室まで。(施設)指導を受けた人数を確認し事業推進係へ伝える。